

◎環境浄化の世界的権威

海洋生態学の世界的権威で、大規模な環境汚染を防ぐ「バイオ・レメデーション」(微生物利用環境修復)の第一人者として知られる、米国のカール・オットマンハイマー博士(71歳)が、京都で開催される専門家を前に、このほど井上昭夫・天理まき文化会幹事務局長の案内で親筆を贈られた一写真。

バイオ・レメデーションとは、化学物質による大規模な環境汚染に対し



て自然界の微生物を用い、生態の自己修復を促進させる環境浄化技術。近年、海洋における原油流出事故などが相次ぎ、地球の生態系に深刻な影

響を与えている。オットマンハイマー博士は、一九九〇年メキシコ湾で発生したメガボルグ事件では、四六〇万ガロンの原油が流出した。この時、世界で初めてオットマンハイマー博士の「バイオ・レメデーション」が公衆で駆使された。生態系に害を及ぼすことなく、原油を分解し、多大な成果を挙げた。この技術は米国の「四〇方」以上で実施されているが、日本でも「バイオ・レメデーション」がその実用性を調査する本拠地の検査に乗せられた。

「今回、縁あって天理を訪ねたのは、私自身が、非難に巻き込まれた。天理の創造神話である『天理の海日記』を聞き、私自身海洋学者としての論議

と哲学に大きな関心を抱いた。この海中より湧き出された魚たちが、リンボリン(鮫鮫)の形で知られていくが、また海洋学などを通じて、非科学的な論議に巻き込まれていく。そして、何よりも、この世界、神のからだ、だという概念こそ、地球環境問題を考える上で、最も科学的な共存思想だと思つたと語り、オットマンハイマー博士は、ぜひぜひ天理の海日記から外の景色を眺めていた。